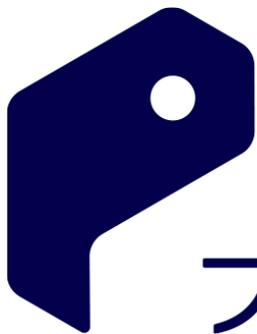


病院経営改善プラットフォーム 「こころんく」のご提案



ヘルスケア × IT × 経営支援

プレアデス株式会社



ヘルスケア × IT × 経営支援
プレアデス株式会社



会社概要

《社名》

プレアデス株式会社

《本社》

〒860-0029 熊本市中央区米屋町1丁目7 食糧会館ビル6F
TEL 096-273-7911 / FAX 096-273-7912
WEB : www.pleiades7.co.jp
MAIL : official@pleiades7.co.jp

《設立》

2020年5月1日

《事業内容》

- 医療法人の経営支援システム開発
- ヘルスケアオープンデータ分析

《拠点》

東京オフィス 〒141-0031
東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツビル2F

大阪オフィス 〒540-0033
大阪府中央区石町1丁目1-1 天満橋千代田ビル2号館9F DE号室

福岡オフィス 〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2丁目18-28 ジェントリー博多 701号室

医療法人経営者のための
病院経営改善プラットフォーム

こころんく

基本パッケージ

医療法人マネジメントを たった一つのシステムで

電子カルテ・医事システム・会計システムなど 各部門システムと自動連携



経営管理室

収益・施設基準・経営指標・財務分析



入院マネジメント

病棟管理・稼働・重症度



外来・救急・訪問診療

新患・診療行為・マップ分析



地域連携室

入退院支援・地域連携



医事・診療録管理部

患者統計・査定返戻・病歴管理



看護部

臨床指標・病棟統計



薬剤部

採用薬・抗菌薬使用状況



リハビリ部

疾患別リハ・アウトカム指標



検査部

放射線科・臨床検査科統計



介護事業部

事業所別収益・利用者統計



委員会活動

議事録・統計・報告書



グループウェア

スケジュール・掲示板



総務関連

稟議申請・出張申請・有給管理



庶務部

物品購入・資産管理



人事部

人事マスタ・面接・入退職管理

病院の収益を改善するためには、売上 = 診療《単価》 × 患者《数》のいずれか、ないし両方を引き上げる必要があります。

また、入院基本料が包括払いの中で、医療サービス提供の《標準化・効率化》が必要です。

そのため、病院経営改善プラットフォーム「こころんく」は、上記の3つのポイント《単価・数・標準化》に関連する病院経営指標の【PDCA】を徹底的にマネジメントをする機能が盛り込まれています。

P：地域のオープンデータを参照しながら「**P：事業計画**」を作成し、部門別の目標値を設定します。

D：電子カルテ・医事システム・財務システムなどの部門システムから、日々のデータを「**D：自動収集してタイムリーに可視化**」します。

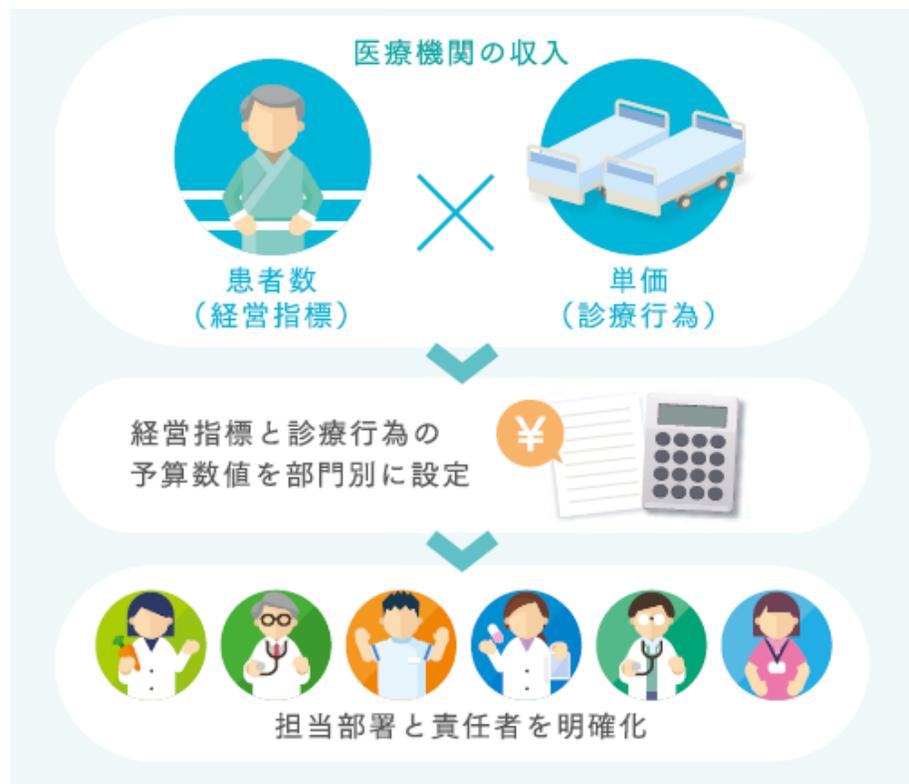
C：正確な経営データを根拠に、各診療部門への「**C：改善アクションを提案**」します。

A：各部門から「**A：アクション実行後の報告レポート**」を受けとります。

上記の【PDCA】を徹底させる機能をシステム化することによって、

病院収益を改善させることを目的にしています。

毎期の事業計画予算を作成するために、部門別の経営指標に目標値を設定します。



毎期作成している医療法人の事業計画を「こころんく」へ入力していきます。

最初に財務データを売上から入力し、売上を構成する代表的な経営指標に目標を設定していきます。

診療単価を構成する手術件数や加算に指導料の算定件数、出来高の疾患別リハビリ件数や医師別のオーダー件数、病棟別の回転率や重症度などを設定していきます。

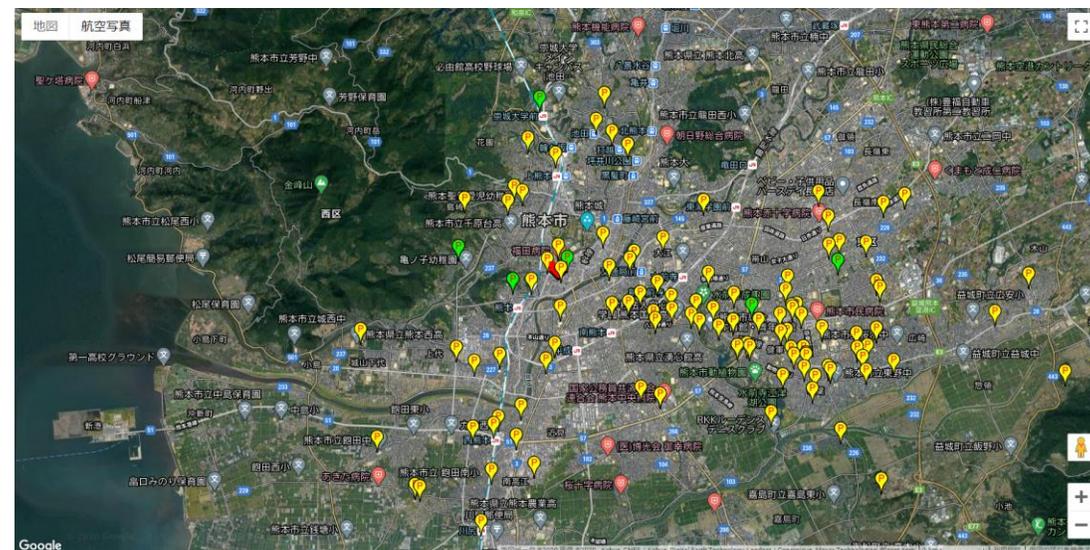
患者数に影響を与える地域連携室に関する月間目標件数を入力します。

地域連携室の担当者別訪問件数や月間相談件数、入院患者数、平均入院判定期間などを入力します。

このとき、こころんくの患者住所マッピングデータや地域オープンデータを活用して、連携室の営業戦略決定の材料にします。



入院患者や訪問先施設のマッピング



こころんく 経営指標 (一例)

- 事務部 入外収益、保険別収益、診療単価、疾病統計、未収金管理、返戻率、自費請求、健診者数
- 財務 損益計算書、施設基準、収益性、生産性指標、安全性指標、効率性指標、成長性指標、生産性指標、機能性指標
- 地域連携室 訪問件数、相談件数、紹介状枚数、判定期間、キャンセル数、新規入院数、入院経路別件数、紹介元統計
- 外来 (診療科別) . . . 診療・レセ単価、新患数・率、初再診数・率、実・延患者数、病名統計、患者属性分析 (地域・性別・年齢)
- 入院 (病棟別) 診療・レセ単価、入院患者数 (新規入院・転棟)、稼働率、回転率、1日平均患者数、当日在棟患者数、平均在院日数、看護必要度、在宅復帰率
- 診療区分 (医師別) . . 検査、画像診断、投薬、注射、リハビリ、処置、手術、麻酔、病理診断の件数及び金額
- 医学管理等 (部門別)
 - 「外来」 休日・時間外加算、特定疾患療養管理料、栄養食事指導、糖尿病合症管理料、疾患別リハビリ、診療情報提供料
 - 「在宅」 往診料、在総管、施設総管、訪問診療料、居宅療養管理指導料、在宅移行早期加算、ターミナルケア加算、訪看指示料
 - 「入院」 医療安全対策加算、患者サポート体制充実加算、データ提出加算、認知症ケア加算、薬剤総合評価調整加算、入退院支援加算、総合機能評価加算、入院時支援加算、退院時リハ指導料、退院前訪問指導料、介護支援等連携指導料、退院時共同指導、退院時薬剤情報管理指導料、退院時薬剤情報連携加算、薬剤管理指導料、在宅療養指導料、診療録管理体制加算、摂食機能療法、摂食嚥下支援加算、排尿自立支援加算
 - 「地域包括」 . . . 急性期患者支援病床初期加算・在宅患者支援病床初期加算、在宅患者緊急入院診療加算
 - 「回復期」 疾患別リハ、目標設定等支援管理料、リハ総合計画評価料、リハ計画提供料、栄養食事指導、栄養情報提供加算
 - 「療養」 準・超重症児 (者) 入院診療加算、在宅復帰機能強化加算
 - 「緩和ケア」 . . . 救急・在宅等支援病床初期加算、緩和ケア病棟緊急入院初期加算
 - 「特殊疾患」 . . . 準・超重症児 (者) 入院診療加算

まずは様々な公開データと決算内容などを比較分析し、現時点における自院のパフォーマンスを把握します。さらに2次医療圏内の医療機関を分析し、これからどのような医療サービスに力を入れていくのか方針を決定して、地域における自院のポジショニング(強み)を明確にします。

一般病床 10:1
地域包括ケア病床 1
医療療養病床 1
在宅復帰強化加算

厚生局への
届け出データ分析

他の医療機関の届出内容を参照し、自院ではどのような加算、管理料を算定する余地があるのか分析します

病床機能報告
データ分析

病床別の入院基本料やスタッフ数、入退院患者数、オペヤリハビリ件数などのパフォーマンスを分析します

医療法人の
決算情報分析

同規模の病床数、かつ、同機能の病床を有する医療機関で、決算内容が優れている法人の戦略を取り入れます



地域の「将来推計人口データ」と「受療率」を掛け合わせて、疾病分類別の患者数推計を算出し、自院の当該エリアにおけるシェア率を分析します



ベンチマーク機能

上記の情報を収集分析し他院とのベンチマークを行います



〇〇病院は、同じ病床数で、同じ病床機能なのに、なぜ売上も利益も違うのだろう..



オペ件数に
違いがある



病床の稼働率や
重症度に違いがある



疾患別リハビリ件数に
違いがある



職員数一人当たりの
生産性に違いがある



算定している加算や
施設基準に違いがある



在宅医療や地域連携に
力をいれている



介護施設を運営して
おり患者の流れが確保
されている



病床別の入院基本料に
違いがある

年度ごとに比較して分析することで、各医療機関がどのような戦略をとり、その結果どのようなパフォーマンスを出しているのかを理解し、自院の戦略へ反映させていきます。

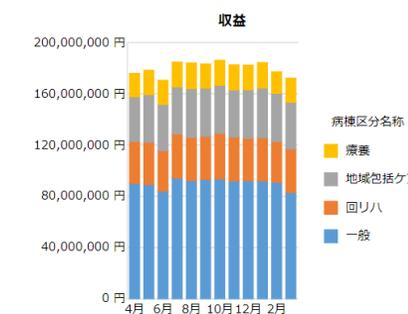
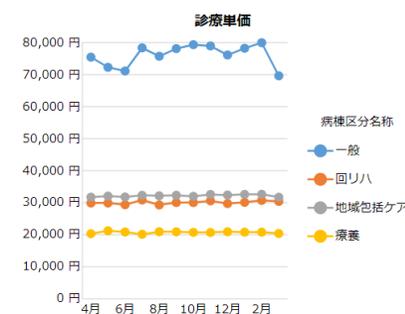
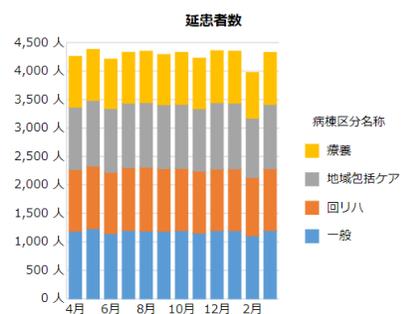
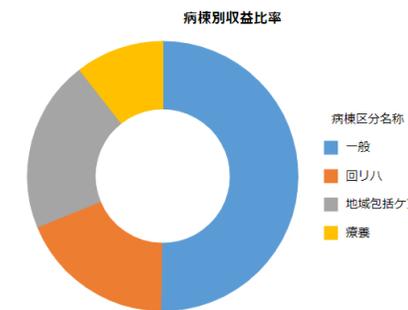
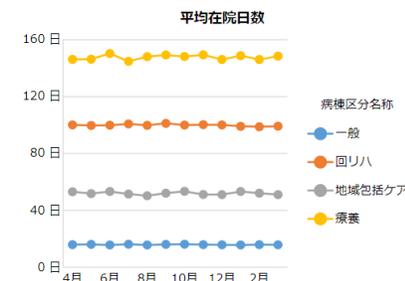
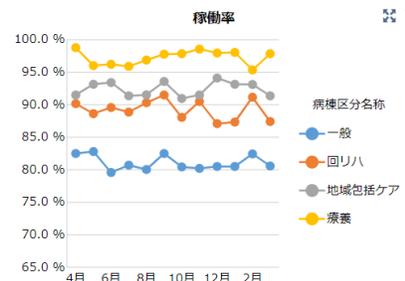


ここりんくパッケージには、電子カルテシステム・医事会計システム・財務会計システムの各データ連携機能が含まれています。

診療部門データと財務部門データは自動収集が可能です。

地域連携室の営業データは、地域連携業務支援機能から自動集計されます。

病棟	当月			
一般病棟	平均在院日数 12.5 日	在宅復帰率 83.4 %	重症者割合 43.1 %	
地域包括	平均在院日数 26.5 日	在宅復帰率 85.8 %	重症者割合 22.4 %	訪問看護回数 265 回
	自宅等からの入院割合 10 %	緊急患者受入 2 人	リハ平均単位 2.4 単位	開放型共同... 4 回
療養	医療区分23割合 82.6 %			
病棟	当月			
回復期	平均在院日数 36.4 日	在宅復帰率 89.9 %	重症者割合 36.9 %	改善者割合[3点以上] 79.3 %



先月の診療科別状況

診療科別診療実績: 最新月状況

1 - 5 (8件中)

	診療科名称	稼働日数	延患者数	実患者数	初診患者数	再診患者数	診療単価	保険収益	自費収益	金額
	内科	26 日	473 人	170 人	23 人	441 人	5,312 円	2,512,576 円	14,540 円	2,479,912 円
	消化器内科	26 日	270 人	67 人	6 人	264 人	6,121 円	1,652,670 円	17,620 円	1,643,264 円
	循環器内科	26 日	291 人	34 人	5 人	286 人	6,212 円	1,807,692 円	0 円	1,846,499 円
	呼吸器内科	26 日	273 人	21 人	9 人	264 人	6,432 円	1,755,936 円	0 円	1,786,239 円
	神経内科	15 日	141 人	31 人	11 人	130 人	5,778 円	814,698 円	14,540 円	815,138 円

自動連携

統計&グラフ化



電子カルテや部門システム

こころんくパッケージには、地域連携室の業務支援システムも内包されています。

紙やExcel管理が中心の地域連携業務をこころんくでシステム化することで、

自院の地域に対する営業データが自動集計されます。



地域連携室支援システム機能

01



県内の施設DBより

営業リストを
作成可能

02



Googleマップ上に

紹介実績のある
施設情報を表示

03



担当者ごとの

訪問日報が
作成可能

04



連携先ごとの

面談状況や
営業統計を表示

05



日々の相談業務を

入院相談
管理機能

06



患者情報管理

患者
フェイスシート

07



より早い返答

入院判定
会議

08



来月の予約は・・・

空きベッド
検索

09



入院患者を一元管理

在棟患者
一覧表

10



連絡先や担当者

連携先
マスタ

11



担当者ごとの

担当者別
入院実績管理

12



毎月の変化を

各種
統計

Check

日ごと、週ごと、月ごとに、分析資料を作成、必要な経営指標をタイムリーに可視化します。

ここりんく ダッシュボード



〇月〇日 部門長会議

議題

- ・医療資源投入量の標準化
- ・〇〇管理料の算定へ向けて
- ・地域連携室の営業力強化

ここりんくの日報・週報・月報や定期的な経営会議を通して、分析データから見て取れるデータの変化について、医局や各診療部門長と面談を行います。

ここでは、詳細なプランの指示が固まっていなくても大丈夫です。

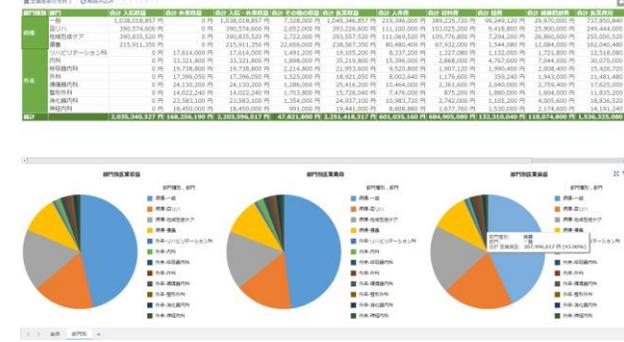
各データの変化を病院経営層と医師や病棟看護師長、リハビリ部門長や地域連携室長と共有し、どうしてデータが変化しているのかを議論してください。

現場スタッフの一人一人の意識や行動の結果が、経営データとして確実に表れてくるという認識を持ってもらうことが重要です。

業業収益



財務データ



病棟別 在棟患者一覧

診療科別 外来実績



疾患別リハビリ実績



医学管理・診療行為統計



Action

関連部署と改善案の合意を取り付け、実行を支援し、報告レポートを提出してもらいます。



各部門長と個別ミーティング

ここりんくデータに基づいた面談を通じて、複数の小さな改善プランが得られます。

各部門のスタッフと来月の改善案として合意し、議事録やTODOリストに記録します。

その後、各部門の現場で、改善プランが実行がされるように、院内の調整を行います。

ここで成果が上がってくると、診療現場と事務サイドの信頼関係が出来上がってきます。

ミーティング議事録



TODO管理とコミュニケーション

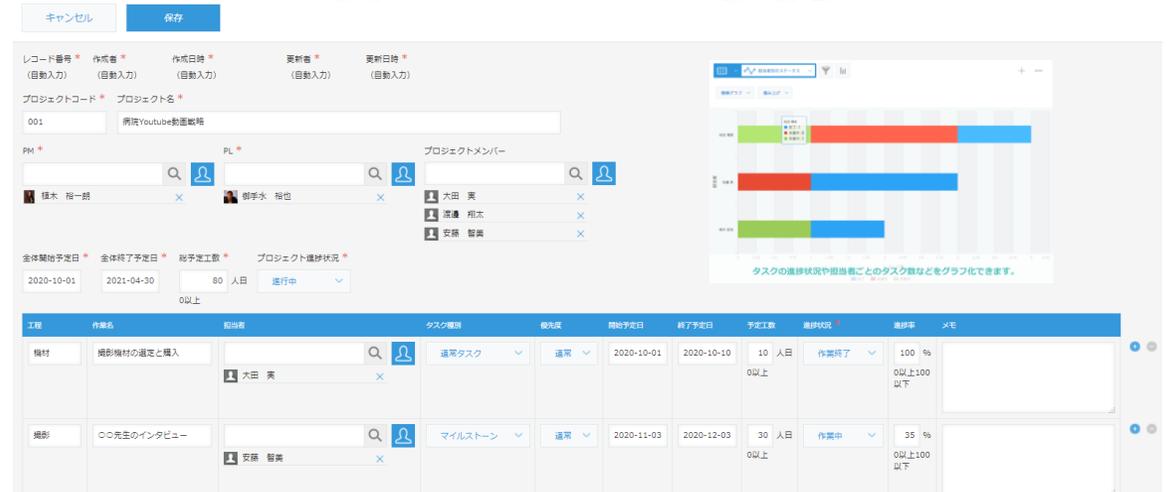


タスクについての連絡・相談はコメント欄に集約できます。

報告フォーマットの統一 と 一元化



増患プロジェクトのタスク進捗管理など



ここりんくは、サイボウズ社のkintoneを活用して構築します。

そのため開発期間が短く、ローコストで開発でき、かつ初期導入後も様々なアプリケーション機能を追加・拡張していくことが可能です。

*オンプレ版は別途ご相談ください



5000件を超える
オーダーメイドの 医療・介護アプリ 制作実績

様々な部門システムと連携可能

 電子カルテシステム	 医事会計システム	 財務会計システム	 看護支援システム
--	---	---	---

 リハビリ支援システム	 介護請求システム	 SPDシステム	 人事給与システム
---	---	--	---

 インシデントレポート	 セラピスト別リハビリ実績表	 抗菌薬使用状況	 介護事業所別実績管理表
---	--	--	--

 院内資産管理メンテナンス表	 在宅患者情報共有アプリ	 研修参加者申請管理	 入退職・異動チェックリスト
--	--	--	--

 有休管理	 物品購入在庫管理	 交通費清算	 借入金返済管理
---	---	--	--



総合病院（384床／608床／177床）
T病院グループ様

当法人グループでは、いままで様々な部門専用システムを導入してきました。

日々、各システムから情報を抽出し、膨大な数のExcelシートで集計し、日報・週報・月報を作成していましたが、こころんくを導入することによって、複数の部門システムから自動収集した経営指標を一つのプラットフォーム内で、タイムリーに可視化・分析・報告が出来るようになりました。

また、電子カルテのデータベースから情報を参照してきているので、既存の帳票ではうまく取り出せなかった細やかな経営指標も収集できるようになり、日々蓄積される膨大な診療データを法人経営へ迅速に反映させることできるようになりました。



回復期病院（89床）
N病院様

診療データを経営改善に活かすために、電子カルテと同時に検討して導入しました。

様々なサイトから個別にダウンロードしていた、地域のベンチマークデータが、一つにまとめられているのも魅力でした。

導入後のもっとも大きな変化は、現場スタッフが、稼働率や疾患別リハビリ件数、FIM改善割合、日当点の変化に敏感になってきたという点です。

また初期導入後、毎月の保守範囲内で、少しずつ稟議申請や会議の議事録、医療安全委員会のインシデントレポートなどをアプリケーションとして追加し、経営のみならず病院運営全体のマネジメントの統合を進めています。



ケアミックス病院（234床／2診療所／33介護事業所）
医療法人S会様

当法人は、グループ内の医療法人と社会福祉法人で広く地域展開しています。

病院、診療所、特養、老健、その他ほとんどの種別の介護事業所を網羅的に展開しており、各事業所の現状を詳細に把握することが困難でした。

こころんくは、電子カルテと介護システム更新に合わせて検討し、コンサルティング支援も同時に受けることによって、事業所ごとの適切な診療単価等の予算設定が可能になりました。

事業所同士の経営状態が可視化されたことによって、責任者会議での発言がより具体的な施策になってきており、経営に関心のある若手の育成にも活用しています。



療養病院（969床）
A病院様

病床規模が大きく、総勢26名の地域連携室業務の効率化が導入検討のきっかけとなりました。

地域連携室は、もともと活発に活動できていましたが、電子カルテではカバーできない、連携室特有の業務が多く、紙やExcelでの運用が膨大な量となっていました。

患者フェイスシートや入院判定資料、連携室関連の統計がシステム化され、電子カルテから在棟患者情報も収集できるので、連携室を通さない入院患者フォローがスムーズになりました。

医事課や病棟へ頻繁に確認していた手間を削減し、地域の医療機関や施設への営業活動をさらに強化して、より迅速な入院受入体制を構築していきたいともいます。